The Lepidopterological Society of Japan

福知山産キマダラルリツバメに就て

芦 田 豊

Spindasis takanonis Matsumura キマダラルリツバメ
上：鳥取型（表），下：京都型（裏）
〔共に Jun. 27, 1949 採集〕

1948年6月26日，當時南陵中學校2年生吉井雅宏君が，福知山市字猪崎城山遊園地（標高66m）で初めて1♂を採集．1949年6月27日，同君と私や昆虫班は晴天に恵まれ，午前10～11時頃に前年とほゞ同場所で5♂♂を採集，翌日より網を捨てて繼續觀察を行つたが，7月11日以後は全く見られなかつた．

この標本は岡田慶夫氏によると，1948年の1♂は原型で，1949年の5♂♂は原型．2♂♂は氏が *Spindasis takanonis prospera* として發表された京都のものに一致するとのことである，

次に觀察事項を2 3掲げると，

（1） 午後4～5時頃にかけ，カシ・クヌギ・クリの林の上で交尾をするのか2頭がきりきり龍卷のように 6～7m 舞上るのを3～4組，6月30日～7月9日

A GENERIC REVISION OF THE PIERIDAE： A. B. Klots がかなり以前に Entomologica Americana, Vol. XII (n. s.), nos. 3, 4, (1933) に發表した100頁餘りの論文である．その大要は本誌前號に紹介された，A. H. Clark の Classification of the Butterflies (Proc. Biol. Washington, Vol. 61, pp. 77～84, 1948) に採錄されていて，すでに我國に紹介されている様だが，日本産の種類に関係した部分のみ要約すると次の様である．

亜科 Pseudopontiinae *Pseudopontia*（アフリカ産）

亜科 Dismorphiinae *Leptidea*……………………ヒメシロチョウ，エゾヒメシロチョウ．

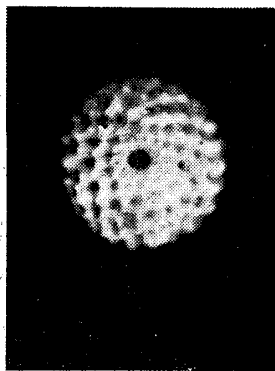
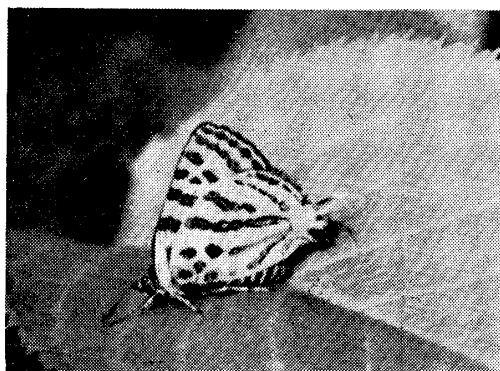
亜科 Pierinae
族 Euchloini
- *Anthocharis* (s. str.)………クモマツマキチョウ．
- *Anthocharis* (*Falcapica*)…ツマキチョウ*．
- *Hebomoia* …………………ツマベニチョウ．

族 Rhodocerini
- *Colias* (s. str.)……………モンキチョウ，ヤマモンキチョウ．
- *Catopsilia* …………………ウラナミシロチョウ，ウスキシロチョウ，ミヅアオシロチョウ．
- *Gonepteryx*…………………ヤマキチョウ，スヂボソヤマキチョウ．
- *Eurema* (*Terias*)…………キチョウ．

族 Pierini
- *Aporia* (s. str.)……………ミヤマシロチョウ，エゾシロチョウ．
- *Pieris* (*Synchloë*)…………モンシロチョウ，スヂグロシロチョウ，エゾスヂグロシロチョウ，タイワンモンシロチョウ．
- *Pieris* (*Pontia*) …………チョウセンシロチョウ．

このうちで注目すべきものは，チョウセンシロチョウ屬 *Pontia* を *Pieris* の亜屬としていることだ．ツマグロキチョウが脱落していて，*Eurema* のどの亜屬に入るかわからない．〔※は本號の岡垣弘：″日本産ツマキチョウ屬の屬名について″ 參照〕（岡垣弘）．

NII-Electronic Library Service

The Lepidopterological Society of Japan

サクラの葉に止つたキマダラルリツバメ及びその卵.

卵は1949年7月4日採集, 同6日死せる♀の腹より抽出した15個の内の1つ. 直徑0.75～0.8mm, 高さ0.35～0.4mm, 色は淡緑色.

によくみかけた.

（2） 飛び方はセセリのように早く, すばやく葉に止る. クリ・サクラ・クヌギ・マツ・ネム・カシ・ササの葉に止つているのをよく見かけたが, 花に集つたことはなかつた. 同一の葉に長い時には3～4時間も止つていることがある. 翅を開閉することは少い.

（3） 靜止している時に指又は棒切を前脚に靜かに觸れてやると, 靜かにのぼりつく. 靜かに行えば失敗することはなかつた.

ZUR KENNTNIS DER GROSSSCHMETTERLINGE VON KOREA. Pars II.: Felix Bryk が Arkiv. f. Zool., Vol. 41*a*, no. 1: 225 pp., 7 pls. 1948. に發表せるもので, 多數の新屬・新種・新亞種を記載している. 産地は主に北鮮朱乙である. 新記載のものは次の様なものである (新屬名のみ記し他は省略する). シヤチホコガ科 (1新種, 8新亞種, 1新型), ドクガ科 (8新亞種), ヤママユガ科 (3新亞種), イボタガ科 (2新屬, *Brahmaeops*, type *B. japonica*; *Brahmidia*, type *B. hearseyi*, 1新種), カギバ科 (3新亞種), カレハガ科 (5新亞種), ヒトリガ科 (1新種, 12新亞種, 2新型), トガリバ科 (2新亞種), ヤガ科 (5新屬, *Erythrotis*, type *E. cedermarki*; *crinisinus*, type *H. stygia*; *Sten-Bergmania*, type *Herminta albomaculis*; *Sinarella*, type *S. stigmatophora*, 又 *Sphragifera* Staud. を *Sphragidifera* と訂正・21新種, 75新亞種, 2新型), シヤクトリガ科 (1新屬, *Heterothalera*, type *H. chlorosaria chosensis*, 7新種, 54新亞種, 1新型), マダラガ科 (1新亞種), イラガ科 (1新種, 2新亞種). Remington も Lepid. News の紹介に述べているが, この様な大著が出され, しかもそのタイプ標本が歐洲にあることは, 東洋の研究者にとり非常に再檢討が困難となつて來てる. 又これだけの記載をなし乍ら Genitalia について觸れてないことは非常な落度であろう. 餘程詳細な外部形態の記載があつても, 現代に於ては新種, 新屬の記載に genitalia の特徴をも附記するのが至當と思う. (岡田慶夫)

鱗翅類の翅脈に關する研究: 野平安藝雄氏の翅脈に關する一連の研究は廣く知られているであろう. 氏は1947年末より或は自刊で, 或は專門誌に鱗翅類各科にわたる研究を次々と發表し, 斯界に新分野を拓いた. 蛹の翅脈が次々と變化して行く有樣を生體に於て觀察した氏の記錄は, 成虫に於ける翅脈の變異や系統發生に對し寄與する所大なるものがある. 同氏の努力によりますますこの方面の新事實が解明されん事を願うのは私のみでなかろう. 文献の一々に關しては誌面少きため省略させて頂く. (岡田慶夫)

NII-Electronic Library Service